

手稲区

テーマ

安心・安全なまちづくり

防犯パトロールから除雪まで話しは尽きず、あっという間に予定時間が終了。区民の皆さんの、安心・安全なまちづくりに対する熱い思いが伝わってくるタウントークでした。

手稲区タウントークメモ

- 実施日/10月29日(土)
- 会場/手稲区民センター
- 参加人数/約120人
- 発言者数/9人

地域の安全を守る 一つになった心

稲積連合町内会会長 うじえ 氏家さん

昨年、手稲区では16件の車両放火事件がありました。そういった中、自らの手で地域の安全を守ろうとみんなが団結。町内会名の入った上着や帽子などをそろえてパトロールを開始し、防犯体制を整えることができました。みんなが心をつにし、共に行動することが、地域の治安を守る上で一番大事なことだと感じています。

細く長く活動を 続けていきたい

山口団地中央自治会会長 まつざか 松坂さん

氏家会長からもお話があった連続放火事件の後、自分の街は自分で守らなければならない、と団結し、パトロールを開始しました。そして1年が過ぎた今、正式にパトロール隊を立ち上げることができました。これからは気張らずに、細く長く活動を続けていきたいと思っています。

市長から

皆さんが立ち上がり、団結して犯罪に立ち向かわれたという活動をとても心強く思います。大都市になると人々の交流が希薄になり、犯罪が起こりやすくなります。それを阻止するには、地域のみならず、顔の見える関係をしっかりつくっていく事が大事だと思います。

地域内の駐車場を中心に見回りする山口中央団地自治会・パトロール隊の皆さん。現在は1週間から10日に1回、午後9時～午前零時の間に見回りをしている。

少年消防クラブの活動で 貴重な体験ができました

富丘少年消防クラブOB おおもり 大森さん(左)、ほり 堀さん(右)

ごみ拾いや歳末パトロールのほか、心停止時の救命装置AED(自動体外除細動器)の使い方も習い始めました。

冬の災害に備えるために、非常食を備蓄する方法や、真冬に地震が起きたときに生き抜くすべなどを学ぶ活動を始めようと考えています。

市長から

AEDの使い方を学んでいるというのは素晴らしいですね。いざという時に使えなければ意味がないので、多くの人が使えるように広めていきたいと思えます。また、冬の災害に備えた活動というのは、札幌においてはとても重要なことです。我々の知恵や知識を蓄えていくことが必要だと思います。

地域の中で雪を処理できる 仕組みづくりを

稲穂地区 いちのみや 一ノ宮さん

今、札幌市はとても遠くまで雪を捨てに行っていますが、近隣の小中学校や公園などを活用する方法を考えるべきです。そういった場所に雪をためておいて、春先には住民を総動員して雪割りをする、参加した住民の頭数で助成金を出すという制度をつくれれば、ダンプ1台を雇うよりずっと安く、効率的に排雪できると思います。

市長から

私も同じ考えです。近隣の空き地などを有効に活用する手法を、今年から一部始める方向で検討しています。雪は天からの贈り物です。雪のおかげでみんなが団結できる街を目指して頑張っていきたいと思えます。

西岡地区で行われた交通安全の街頭啓発に参加する札幌大学の学生たち。地域に開かれた大学の取り組みが進められている。